

# 令和7年度 加藤学園高等学校 学校評価書(結果)

加藤学園高等学校長

加藤瑠美子

加藤学園高等学校関係者評価委員会委員長

尾崎 庸夫

## 学校教育目標

建学の精神である校訓「至誠」は人間の最も大切な心構えであり、創立以来不変の教育理念として継承されている。教育は、知育・徳育・体育の調和のとれた育成にあるが、徳育の最高目標として、「至誠…まごころを尽くす」を掲げ、近代的知性にあわせて、誠実で品位ある人づくりを目指す。

## 今年度の重点目標

- |                         |                         |                   |
|-------------------------|-------------------------|-------------------|
| 1 生徒一人ひとりを大切にし、豊かな心を育てる | 2 保護者・生徒が安心、満足できる学校づくり  | 3 より高い目標を実現する進路指導 |
| 4 基本的生活習慣の徹底            | 5 校友会活動への積極的参加、文武両道を目指す | 6 国際理解教育の推進       |

領域	ねらい	評価項目	達成目標	自己評価		学校関係者評価委員会	
				評価	学校としての反省点	評価	意見
徳育	建学の精神の実践	目標を踏まえた学習活動を実施し、指導と一体化した評価を行う	1.良き伝統を継承し、広く人間性培う 2.挨拶の励行と瞑想の徹底 3.「探究」との連携を図る 4.ボランティア活動の実施 5.授業充実のために教室内外の環境整備を心掛ける 6.生徒の見本となる言動・服装を常に意識し、品位を保つ	B	・毎時間の授業時に挨拶と瞑想の指導を実施している。継続的に日常生活の中で指導していくことが大切となる。 ・1年生の徳育の授業は、チームティーチング制で実施している。 ・ボランティア活動は、6月(2年生)と11月(1年生)に沼津市内の清掃活動を実施した。 ・毎週金曜日は大掃除を実施している。また、教室内外の整備については、常に心掛けている。 ・徳育については、77%の保護者が共感してくださっている。 ・探究と連携し3年間のカリキュラムを計画・実行している。	A	・他校にはない取り組み。マナー教育の場として大切である。 ・生徒の挨拶について、運動部(柔道部や野球部等)の生徒は積極的にしてくれるが、以前のように立ち止まって挨拶をする在校生はほとんどいなくなった。今後、徹底した指導が必要と感じる。 ・挨拶がよく出来ているイメージがある。 ・時代と共に指導が変わってきている。 ・チームティーチング制で指導していることは評価できる。
教科指導	基礎・基本の確実な定着と個性を生かす教育の充実	授業改善の推進を図る	1.各コースの特性を生かし「生徒一人ひとりの能力を引き出す授業」の展開 2.副教材、iPad等を積極的に活用し、授業を工夫して学力向上に努める 3.教科研鑽に努め自ら学ぶ姿勢の構築・アンケートを活用して生徒の要望にこたえる	B	・学習指導に関しては、アンケート結果から各教員が教材研究等、積極的に取り組んでいるといえる。 ・副教材を積極的に活用し、基礎学力の定着を図っている。 ・授業満足度アンケート結果より、76%の生徒が7点以上(10点満点)の点数をつけていることから、生徒の授業満足度は高いといえる。 ・魅力ある授業については73%の保護者が共感してくださっている。	A	・主体的な学びの中に加藤学園の良さを加えていきたい。 ・多くの生徒、考え方があり、個に対応して指導していただいていることが伝わる。 ・探究的な学び・未来へつながる学びがキーワードとなる。生徒の主体性を発揮させることに授業改善のヒントはある。
		個に応じたきめ細かな指導を行う	1.英検・漢検等の資格取得にチャレンジする	A	・模擬試験と連動した副教材を積極的に活用し、基礎学力の定着を目指した。活用に関しては、個人差があるため結果にも影響している。 ・英検指導を徹底して行い、合格実績を高めている。(全コース) ・英検対策合宿(12月)を実施した。(PⅡ1、PⅠ1希望者) ●進学コースアジアカルチャーの生徒(2・3年生)の合格者数 HSK中国語検定 1級15名(15名中) 2級11名(16名中) ハングル検定 入門級12名(16名中) 5級1名 世界遺産検定 3級11名(14名中) ●総合コースライフデザイン専攻の生徒(2・3年生)の合格者数 手話検定 5級7名(8名中) 食物調理技術検定 3級8名(8名中) 2級11名(19名中) 保育技術検定 3級19名(19名中) 2級16名(19名中)	A	・漢字テスト、3年間満点者が3名いた。 ・興味の幅が広がり、さらに資格取得に繋がるのは評価できる。 ・個々の興味関心に対応している。 ・これらの取り組みは評価できる。
教職員向上	教職員の資質・能力の向上	校内研修の充実を図る	1.公開授業を年間3回実施する 2.研究授業を実施する 3.職員研修を実施する	B	・在校生の保護者対象の授業参観を4月に、中学生とその保護者対象の公開授業を6月と11月に実施した。毎回多くの方が来校し授業を見学した。アンケートを実施し概ね良好であった。 ・研究授業は、各教科で実施している。 ・職員研修会は4月(学習法)と8月(ICT)に実施した。また、新任教員研修会は8月に実施した。さらに、新任教員を対象に、受験指導(面接・小論文)の方法等を勉強する会を開催した。	A	・授業参観で先生方の工夫が伝わってきた。 ・ICT教育はこれからの社会を考えると重要です。

領域	ねらい	評価項目	達成目標	自己評価		学校関係者評価委員会	
				評価	学校としての反省点	評価	意見
進路指導	進学・就職へ向けての指導体制の確立	生徒の進学・就職希望の実現を図る	<p>1. 各コース、学年と連携し、学年段階に応じた組織的、計画的な進路指導の推進</p> <p>2. 生徒の能力・適性に応じた受験指導と学力の伸長を図る</p> <p>3. 旧帝国大学・ブロック大学・静岡県内の国公立大学を含む国公立大学30名以上合格</p> <p>4. 早慶上理、GMARCH、関関同立以上の私立大学に40名以上の合格</p> <p>5. 校内進学講演会・相談会の実施</p> <p>6. 小論文・面接指導に全教員で取り組む</p> <p>7. 就職希望者に対し希望職種に就けるようきめ細かい指導を行う</p> <p>8. 外部講習等に積極的に参加し、教員の資質向上を図り、又教育提携大学との交流を図り生徒の学びの幅を広げる</p>	A	<p>・校内進学相談会は48大学、8専門学校にて実施した。主に3年生を対象としているが、一部の2年生も参加し、生徒の進学への意識の変化や若い教員にとっても大学、各種学校を知る良い機会となった。</p> <p>・多くの大学で総合型や学校推薦型選抜を実施し、年内に合格する生徒がほとんどで、不合格になる生徒はある程度のランク以上の大学のみである。今後、益々中堅以下の大学は受かりやすい傾向であるが、力をつけて上の大学を目指す指導が必要である。</p> <p>・共通テストについては、39名の生徒が一般選抜を目指して受験した。難関大学への志願者が増加し、最後まで第一志望を諦めずに受験する生徒が多かった。iPad等も利用しながら、生徒への個別指導が直前まで行われた。</p> <p>・国公立大学(省庁管轄の学校を含む)の合格 26名(3/10現在)</p> <p>東京外国語(1)・東京学芸(1)・山形(1)・茨城(1)・群馬(1)・静岡(2)・三重(1)・東京都立(1)・静岡県立(4)・都留文科(4)・長野(1)・島根県立(1)・名桜(1)・釧路公立(2)・静岡県立農林環境専門職(1)防衛大学校(3)</p> <p>・難関・準難関私立大学の合格 47名</p> <p>東京理科(2)・明治(5)・立教(1)・中央(3)・法政(4)・学習院(1)・立命館(2)・成蹊(3)・明治学院(3)・國學院(13)・武蔵(1)・芝浦工業(3)・順天堂(2)・日本女子(2)・津田塾(1)・同志社女子(1)</p> <p>・夏期休暇中に教員対象の駿台教育探究セミナーを受講した。α特進、特進コースに限らずに進学や総合コースの教員にも参加してもらうオンライン型の教員研修となった。(計18名参加)</p>	A	<p>・進路(大学進学)については、多くの大学に</p> <p>・受験指導は、非常に手厚い指導をしていただきました。</p> <p>・親切丁寧な受験指導をしていただきました。</p> <p>・子供たちの力を伸ばし、希望を叶えるために、先生方がご尽力されていることがわかる。</p> <p>・一人ひとりに対応した指導をされていると実感できる。</p>
保護者や地域住民から信頼される安全・安心な学校づくり	いじめ防止教育 防犯教育 情報リテラシー教育	<p>1. いじめ対策委員会を活用し、安心・安全な環境づくりに努める</p> <p>2. 生徒個々との対話を大切にし、情報収集を心掛ける</p> <p>3. 保健室や心の相談室との連携を密にし、日常の小さな変化を見逃さず早期に対応する(教育相談の充実)</p> <p>4. 地域(警察・青少年センター・市役所・生地研)と連携し、情報交換を通じて諸問題に迅速に対応する</p>	B	<p>・学校に来ることができなかったり、教室に入ることができなかったりする生徒が依然として多い印象である。中でも心の相談室やサポートルームを活用しながら生徒に寄り添った指導ができたのではないかと考えている。家庭との連絡を早めにとり、生徒の情報をしっかりと共有することで、大きなトラブルに発展することなく生徒指導ができた。</p> <p>・金品の盗難や私物の紛失がわずかであるが発生した。その都度調査あるいは訓話を設け、貴重品管理対策も行ってきた。自己管理ができるよう継続的な指導が必須である。</p> <p>・SNSを介しての問題行動発覚は相変わらず多い。来年度からは情報リテラシー講座を例年と異なる方法で実施することを準備しているが、全国的に問題となっている情報モラルの問題に全教職員で取り組んでいきたい。</p>	B	<p>・サポートルームの利用者は、今後増えていくと考えられる。</p> <p>・問題行動については、以前は見える問題が多かったが、最近は見えない問題が発生しているため指導が大変だと思われる。</p> <p>・コロナ後の空白の期間を過ごしている。生徒指導が大変な時期である。</p> <p>・子供の変化に気付き声をかけてくれる先生がいて、良い友人がいて、寄り添ってくれる学校。</p>	

	ねらい	評価項目	達成目標	自己評価		学校関係者評価委員会	
				評価	学校としての反省点	評価	意見
国際理解教育	国際理解教育の充実	国際理解教育の充実を図る	1.国内外を問わず実現できる異文化体験を模索する	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・オンライン英会話の実施 (PⅡ・PⅢ・EnglishLiteracy)。</li> <li>・EnglishDaysの実施 (9月・2日間・αSⅠ・αSⅡ)。到達度別のグループを編成しAll Englishの2日間を過ごす。</li> <li>・東京グローバルゲートウェイ研修の実施 (10月・PⅡ)。</li> <li>・横浜中華街体験&amp;散策の実施 (12月) (PⅢアジアカルチャー)。2年生も計画したが、流感のため学級閉鎖となり中止となった。</li> <li>・韓国研修旅行の実施 (2月・3泊4日・希望者) 参加数11名。</li> <li>・ハワイ・ホノルル短期留学の実施 (3月) 参加数6名。</li> <li>・アジアカルチャー (PⅡ・PⅢ選択者) の授業を通じて、東アジアの文化体験 (衣・食) を実施している。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・楽しみながら取り組める企画を実施している。</li> <li>・今の取り組みを今後も大切に。</li> </ul>
校友会	校友会活動への積極的参加	校友会活動を活性化	<ol style="list-style-type: none"> <li>1.生徒の自立性、規律性、人間性、社会性の向上に努める</li> <li>2.達成目標を掲げ、心身の鍛錬に励み相互の信頼関係を構築する</li> <li>3.校友会活動を通じた大学受験により進路実績をあげる</li> </ol>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各部活動の競技能力や技術を高めるだけでなく、日常生活における挨拶の徹底や校則の遵守など、人間性や社会性を高めるための指導を実施した。</li> <li>・保護者アンケートを見ると、部活動の充実について19%の保護者が「わからない」と回答している。「THE KG TIMES」を発行しているが、活動内容を保護者へ伝える他の手段を検討する必要がある。</li> <li>・運動部・文化部ともに熱心に活動し以下のような成果を出した。</li> <li>・各部活動の実績</li> <li>○柔道部 <ul style="list-style-type: none"> <li>・インターハイ 男子団体6名出場 ベスト16</li> <li>・インターハイ 男子個人2名出場 60*<sub>3</sub>級ベスト8、100*<sub>3</sub>超級ベスト16</li> <li>・全国高校柔道選手権 男子団体5名出場</li> <li>・全国高校柔道選手権 男子個人2名出場</li> <li>・全国高校柔道選手権 女子個人1名出場</li> </ul> </li> <li>○バドミントン部 <ul style="list-style-type: none"> <li>・インターハイ男子学校対抗 出場</li> <li>・インターハイ男子ダブルス 1ペア (2名) 出場</li> <li>・インターハイ女子ダブルス 1ペア (2名) 出場</li> <li>・インターハイ男子シングルス 1名出場</li> <li>・全日本ジュニアバドミントン選手権男子シングルス 1名出場</li> <li>・国民スポーツ大会バドミントン競技 少年女子のメンバーとして2名出場</li> </ul> </li> <li>○チアリーダー部 <ul style="list-style-type: none"> <li>・全国高校ダンスドリル選手権2025 SONG/POM部門Medium編成 15名出場</li> <li>・ALL JAPAN CHEER DANCE CHAMPIONSHIP2025 高校生編成Pom部門Medium 11名出場</li> <li>・USA Nationals 2025 全国大会高校編成Song/Pom部門Medium 15名出場</li> </ul> </li> <li>○空手道部 <ul style="list-style-type: none"> <li>・全国高校空手道選抜大会女子団体形 3名出場</li> </ul> </li> <li>○吹奏楽部 <ul style="list-style-type: none"> <li>・マーチングバンド全国大会 高校の部 銀賞 (全国第5位) 40名出場</li> </ul> </li> <li>○囲碁・将棋部 <ul style="list-style-type: none"> <li>・全国高文祭囲碁 県団体のメンバーとして1名出場</li> </ul> </li> <li>○軽音楽部 <ul style="list-style-type: none"> <li>・全国高校軽音楽SUMMIT 1バンド (4名) 出場</li> </ul> </li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ホームページ等の活用を工夫して。</li> <li>・身体的成長が目覚しい時期に学習との両立は大変であるが、頑張っている生徒がいる。怪我の無いように引き続き頑張ってもらいたい。</li> <li>・部活動に大きく支えられている生徒が沢山いる。</li> </ul>
学校安全	安全管理の充実	防災訓練の実施と安全管理の充実を図る	<ol style="list-style-type: none"> <li>1.防災訓練の定期的実施</li> <li>2.安全管理マニュアルの確認</li> <li>3.防災避難用設備の改善</li> </ol>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・防災訓練 (8月)・防災講座 (6月・1年生) を実施し、生徒の防災に対する意識向上に努めている。</li> <li>・安全管理マニュアルを活用し、緊急時の対応が迅速にできるよう地域住民との連絡会 (10月) を実施した。</li> <li>・地域防災訓練 (12月) への参加を促したが、期末テスト直前のため参加者数は伸び悩んだ。</li> <li>・職員研修として、防災講座 (8月) を実施した。</li> <li>・地震の頻度を鑑みて、備蓄品の補充を行った。</li> <li>・防災食を食べる等の防災講座を実施した (2月・SⅡ)。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・安全教育について、小・中学生の時は家庭で話をするが、高校生になると話をしなくなる。学校での取り組みを保護者に分かるようにしていただける工夫が必要である。</li> <li>・防災キャンプ等も一案です。</li> <li>・天候による休校等の判断を早めをお願いしたい。</li> </ul>